



〒954-0052

見附市学校町2-7-9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail [mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp](mailto:mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp)

令和3年12月21日 NO.9

「自転車優先レーン」



## オリンピックからパラリンピックへ

見附市中学校校長会 会長 多田 茂

運動会の開会式で次のように話しました。「(前略) 連日パラリンピックが放映され、観戦をしました。感動しました。様々な競技を見ましたが、障害があるからできないのではなく、障害に応じて『できる』ように競技が考えられていました。車いすテニスでは2バウンドまでOK。車いすバドミントンのシングルスではコートを半分だけ使う。視覚に障害があれば、サッカーではボールから音が出るようにする。マラソンなら一緒に走る人がいる。ボッチャでボールが投げられなければ転がす道具を使い、その方向を調整する仲間がいる等々。

『多様性』に配慮して競技のルールを工夫し、できるように支援する仲間がいれば、みんなが素晴らしい力が発揮できるようになります。(後略)」

これまで学校では、みんなが同じ内容を同じ時間に、同じ教室で学ぶ「同質性」が基本でした。オリンピックのように同じルールの中で競ってきました。令和3年答申※では、「令和の日本型学校教育」

として、「全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現」が提言されました。一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うなど「指導の個別化」と、一人一人に応じた学習活動や学習に取り組む機会を提供することで、子ども自身が、学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」が必要とされています。オリンピックの「同質性」から、パラリンピックの「多様性」に配慮したルール、そして支援の考え方へと大きな転換が必要です。パラリンピックでは、どの競技でも選手は「できる」喜びに溢れ、競技を終えれば満足そうな笑顔を見せていました。オリンピック型からパラリンピック型へ、カリキュラムも学びのスタイルも支援の在り方も見直すことで、全ての子どもたちが「できる」喜びに溢れる学校にしたいものだと考えていました。

※「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(中教審答申)」

## 表紙写真に寄せて 健幸都市見附・『自転車優先レーン』



◇見附市は、ウェルネス(=健幸)をまちづくりの中核に据えて、様々な施策を推進しているが、歩きたくなる歩道の整備も、その一環で進められており、今秋、教育センターの周りも随分整備が進みきれいになった。  
◇歩いて健康になる。市内に住む知人は「一日 8,000 歩を歩く」を目標に生活をしているが、通勤時にも速歩で歩いている人を多く見かける。師走になったが皆さん、防寒具に身を包み黙々と寒い中を歩いている。  
◇さて、見附市は見附地区と今町地区とが、見附駅まで少し離れているからだろうか。高校生を中心に、自転車に乗っている人が多いが、これも健幸なまちづくりを推進するものと思う。巻頭写真の「自転車優先マーク」を近隣市で見た記憶はなく、また、見附市に勤務するまで、このマークを意識することはなかった。今月半ば、晴れてはいたが寒い日中、自転車で用事を足される人(上写真)が職場前を通った。誰もが安心して自転車に乗れるのは、自転車優先レーンがあるおかげだと思う。



## コラム 「親ガチャ」を聞いて考えた・・・



◇年末の風物詩「新語・流行語大賞 2021 年」の発表があり、トップテンに「親ガチャ」が入った。「親ガチャ」とは、運の要素が強いカプセル式自動販売機の「ガチャガチャ」を例え、「生まれてくる子どもが親を選ぶことが出来ない」という言葉である。家庭環境などの不公平を嘆くときに使われる。この言葉、二年ほど前にインターネットに現れて、今年若年層を中心に流行語になったのだが、環境的要素に限らず、容姿や知能、身体能力等、遺伝的要素も含めて使われるのだという。  
◇「親ガチャ」を聞いたとき、長年教職生活を送ったせいかわ、現役の頃に言われた「学級担任の当たりはずれ」を考えてしまった。保護者に今も言われているのだろうか。SNSを見ると色々な書き込みがあり、その一つに、学級経営に熱心で、個別指導が手厚い等の先生は、子どもや保護者から人気があり「当たり」で、逆に、学級経営がシンプルすぎて、個別指導が少ない等の先生は「はずれ」・・・とあった。「担任ガチャ」もあるということか。  
◇二学期も師がく訪問や要請訪問等で、多くの学級で授業を参観したり、休み時間や清掃活動等で、先生方の指導や子どもたちの様子を見せてもらって、多くのことを学んだ。  
◇私は授業前に早めに教室に入る。それは、その学級の空気を感じるためである。子ども同士、担任と子どもたちが醸し出す学級独特の空気がある。この空気、これから始まる授業が想像できる。心地よい空気を感じる学級は、教師の問いかけに集中した学習が展開され、一人ひとりが懸命に考えたり班で議論し合ったり、発表に対して賛同や称賛の声が上がったりする。担任は、常に全員の学習状況を把握し、机間支援で一人ひとりに寄り添った助言や励ましをする。一方で、授業前に心地よさを感じなかった学級では、集中した学習を見ることはほとんどない。『教師は授業が命である。』高い授業力を身に付けて欲しいが、まずその前に、子どもたちと心の通った温かな学級を築いて欲しい。  
◇ところで、上述の「親ガチャに外れた」を使う若者たちが自分の親を嫌いかといえ、多くが親を好きであり、親ガチャに外れたのは、親を非難したり責任を押し付けたりしているのではなく、若者は関係を築く潤滑油として、親ガチャを使っているのだという。  
◇子どもたちと信頼関係が築けず、学級経営が上手くいかない。思うように授業が進められないと悩んでいる方もいると思う。学級の子供たちは、担任の先生が大好きである。朝、教室で笑顔の挨拶で子どもを迎える。学習問題は子どもたちと一緒につくる。子どもと同じ目線で話す等を心掛けて接して欲しい。きっと信頼関係が生まれるはずである。(こ)

## <4時から夢塾> 示範授業3 <小学校 社会科>



第10回「4時から夢塾」は11月18日(木)、新潟大学附属長岡小学校の倉石智幸先生から、今町小学校で5年:社会科「日本の工業生産と貿易・運輸」の授業で指導を頂いた。以下、提案授業・ミニ講話の概要を記す。

1 授業の様子 ○本時のねらい…日本が中国との貿易が盛んな理由について、輸出入品…(略)…を理解し、貿易がお互いの国の利益に繋がっていることに気付く。倉石智幸先生  
T1:韓国・サウジアラビア・中国・米国・ロシアの中で、日本が一番貿易を行っている国はどこ?  
C:大半が米国に挙手, 中国4人, ロシア1人 → T:正解は中国 C:何で中国かな?

◎日本が中国と一番貿易をしているのは、どのような理由があるからだろうか?

C:服を通販で買うが中国製が多い。だから中国が一番? T:何を手がかりにすると考えられる?  
C:日本と中国で、売ったり(輸出)買ったり(輸入)している品物がわかると考えられると思う。  
T2:中国との輸出入品(資料)をもとにして、中国との貿易が盛んな理由を考え、班で話し合う。  
C:日本で部品を作り中国に送り、製品を作る。その製品を中国は日本に売る。その繰り返し…。  
T:繰り返し? C:パソコンやスマートフォンの部品を日本で作り、出来た製品を中国から買う。  
T3:日本が中国と一番貿易をしている理由について、分かったことについてまとめよう。



### 2 指導力向上講座 小学校社会科編 (ミニ講座)

#### (1)今日の授業について

- ・導入～追求問題設定～予想→日本の貿易相手1位が中国。貿易額は輸入も輸出もどちらも多い…
- ・追求問題設定～解決…◎を考える手がかりは? →何を売り買いしている? →資料の提示
- ・解決～次への繋ぎ…資料をもとに考えをつくる →考えの共有 →次時への問い

#### (2)わたしの社会科の授業づくり

- レディネス調査…「調べたいこと」「学習方法」を掴んで単元づくりをする。
- ・4年「地域で…長岡花火」…長岡花火の何を学びたいか。どのように学ぼうとしているかを把握。
- 授業の考え方…子ども・教師・教材が関係して授業が作られる。また、教材とは、提示する資料ではなく、子どもが1時間の授業で学習内容を獲得するうえで必要となるもの(教材選択の視点)
- 社会科における「問い」…調べたり考えたりする事項を示唆し学習の方向を導くもの…
- ・「なぜ」→「どのように」へ。予想を言わせることで「何か工夫があるからではないか」となる。



#### 参加者の声

- ・授業の中で、子どもが「その発言をしなれば」使えなかった資料があった。子どもがどう進んでも、どんな発言をしても対応できる資料の準備、授業プランがとてもすばらしいと思った。
- ・「なぜ」が「どのように」に変わっていくように、◎(課題)を打つところが参考になった。
- ・指示が分かり易く、何を考えればよいか、何を知りたいかが明確であり、落ち着いて考えていた。
- ・教師はコーディネーター的な役割で、子どもが自ら資料を求め活用する姿、とても参考になった。
- ・子どもたちが生き生きと話し合い、学ぶためのしかけが随所にあり参考になった。(中学教員)
- ・示範授業を見て、授業観・授業づくりのHow toを学べるのは、実践のイメージが湧いて良い。

## <4時から夢塾> 示範授業4 <中学校 英語>

第11回「4時から夢塾」を11月26日（金）に、今町中学校で新潟大学附属長岡中学校の佐藤正秀先生から、1年：英語「Green Festival」の単元で指導を頂いた。以下、提案授業・ミニ講話の概要を記す。



1. 授業の様子○本時のねらい・助動詞 will を使って冬の過ごし方を伝えたり、相手の冬の過ごし方について理解したりすることができる。冬の過ごし方を積極的に伝えようとする。  
○will を用いた未来の表現を導入する。・power point を活用し、基本表現を繰り返し提示する。  
・will を用いた肯定文、否定文、疑問文のすべてを練習する。  
○power point を活用し、週末や冬休みの過ごし方を表現する。  
・「今日の過ごし方」「冬休みの過ごし方」などいくつかペアで練習する。  
○旅行代理店の社員となり、上司から「若者の冬休みの予定を調査して報告せよ」というマーケティング調査の指令を受けたという設定の活動を行う。  
○冬休みの過ごし方を相互に確認し合う。“Are you interested in traveling?” ”Will you ~this winter?”  
・調査した内容を班内で報告し合う。・まとめた内容を英語で書く。  
○学習した内容について振り返る。



### 2. 指導力向上講座 中学校英語編

- (1)本時の授業について・「音」→「文字」へ（十分な口頭練習）目的・場面・状況を意識させる。  
・本日の活動・苦手な生徒も取り組める。得意な生徒がアレンジできる。自分らしさを発揮できる。  
・スムーズに活動を進めるためにモデルの提示 ・教師によるモデル・生徒によるモデル  
→必ずしも英語が得意な生徒でなくても見通しを持たせ、「これならできそう」と思わせる。

### (2)事前に参加者から寄せられた質問に答える

- 単元の進め方と教科書の活用(佐藤 T の進め方)・①文法の導入(ICTを活用 音声中心) ②活動(ペアが中心) ③文法問題 ④教科書本文導入 ⑤新出単語導入・練習 ⑥本文読解 ⑦本文音読
- パフォーマンステストの例・子どもたちが英語で発表する際、どのような発表を求めますか？  
→①リスナー参加型のスピーチにする。②リスナーを見ながら臨機応変に発表する。
- 「振り返り」の在り方・間の空いた前回の反省を見て、今回の取組に生かせるようにする。
- ICTの活用・タブレットPCの活用方法は？・話す力の向上に！ 発音や抑揚の確認に。  
・ミライシード・オクリンク等・ムーブノートで英作文作成・共有・お互いに拍手やコメントも。



### 参加者の声



- ・最初から英語のシャワーで、無理なくテンポ良く生徒たちを授業に引き込んでいた。さすがだ。
- ・“You're my friend.” 等と声をかけることで、生徒たちがリラックスして学習に取り組んでいた。
- ・活動の流れに無駄がなく、さらに身近な話題が豊富で、生徒が活動に集中して取り組んでいた。
- ・初めての生徒に対して、心を開かせる対応の仕方が凄かった。私もまねてやっていこうと思う。
- ・小学校の学習が、「ここにつながるのだ。」というモデルを示して頂き、ありがたかった。
- ・一時間の中で、肯定文・否定文・疑問文のすべてを用いて活動することに驚いた。参考にしたい。

# 12月

# 科学教育部




《今月の1枚》

冬の時雨虹～よく見ると2本見えます～

## 第57回新潟県いきいきわくわく科学賞

見附市児童生徒科学研究発表会で9作品が推薦され、「新潟県いきいきわくわく科学賞」に応募しました。昨年度の推薦作品は3作品であったものが、9作品になり、全体の研究の質の向上を感じました。下記の通りに入賞しましたので紹介します。



＜小学校中学年（3・4年）の部＞

よく回るこまを作ろう	見附小学校	3年	滝沢 健剛
------------	-------	----	-------

＜中学校物理・化学の部＞

牛乳からプラスチック ～カゼインプラスチックをつくる～	西中学校	2年	波瀾 留奈
--------------------------------	------	----	-------

滝沢さんの研究は条件をいろいろ変えてこまの回り方について調べました。「予想→実験→考察」の流れが整理され、よく回るこまを作ることができました。

波瀾さんの研究は牛乳からプラスチックを作ること、環境への配慮が考えられていて、SDGsの視点につながる内容でした。



＜小学校中学年（3・4年）の部＞

牛乳プラスチックで行う6つの実験	名木野小学校	4年	山本 衡
オレンジの研究	今町小学校	4年	江部 優衣菜

＜小学校高学年（5・6年）の部＞

振り子の研究	今町小学校	5年	石田 悠真
飛まつはどこまで飛ぶのか パート2 手作りマスクの生地の違いによる飛まつ飛び方・発 熱ウイルス吸い込み量・マスク内の温度変化の実験	見附小学校	6年	高橋 岳城
光でバナナは日焼けするの	名木野小学校	6年	森木 和

＜中学校物理・化学の部＞

『ダルゴナコーヒーの三日月の謎』 ～カフェラテの一日目のなぞ PART3～	今町中学校	2年	大平 ひより
------------------------------------------	-------	----	--------

＜中学校生物・地学の部＞

新潟県の海水の研究 Part3	今町中学校	1年	関 美穂
-----------------	-------	----	------

身近な生活の中に潜む科学を調べたり、メディアなどから興味をもったことを調べたりと研究のきっかけになることはたくさんあります。科学研究で大切なことは、目的をもって、調べたいことや知りたいことを解き明かしていくことです。その過程では、条件を制御して調べることや、結果を表やグラフなどにまとめ、関係性を調べることが研究で重要です。時には繰り返し実験して納得いくまで追究することも必要です。

見附市の科学研究の内容については、各校に配布した「わたしたちの科学研究 2021」に掲載しています。ぜひご覧いただき、今後の指導に役立てていただければと思います。教育センターには県の「いきいきわくわく科学賞」の研究冊子も過去のものも保管していますので、ぜひ活用ください。



# ICTと既習事項の活用

当センターの兼任所員である  
「南中学校 槇田宏治教諭」に  
寄稿いただきました！

今年度、「中越教育事務所 中学校重点教科訪問」において、見附市の4つの中学校が順番に理科の公開授業を行いました。各校の理科の先生方が、「科学的な見方・考え方を働かせて、思考・表現・判断を行う生徒の育成に向けて」という共通テーマで授業を行いました。

私は「～ICTと既習事項の活用～」という副題のもと、中学校2年生の「天気とその変化 第1章 大気の性質と雲のでき方」で授業を行いました。この小单元では、雲のでき方について時間的・空間的な関係に気づかせながら、雲ができて雨が降る過程を説明させたいと思い、単元構成を工夫しました。本時は、小単元のまとめの場面で、それまでの既習事項を結びつけて、夕立という現象を説明する内容でした。既習事項を結びつける手立てとして、タブレット端末を活用したジグソー法を行いました。

ジグソー法はアメリカのカリフォルニア大学のアロンソン教授が提唱した学習方法で、理解度が違っていても、お互いが協力しなければならない学習方法を作ろうとして開発した手法だと言われています。今回は、本時の課題「夕立という現象を説明しなさい～昼は晴れているのに、夕方になると雨が降るのはなぜだろうか～」を説明するために、そのヒントとなる既習事項の課題を4つ（以下のA～D）用意しました。

<p><b>A</b></p> <p>【課題】 次の①と②に該当する言葉を入れなさい。</p> <p>【答え】 水蒸気を含む空気が暖められると上昇する。上空ほど気圧が低くなるため、上昇するほど体積は①となり、膨張は②となる。</p>	<p><b>B</b></p> <p>【課題】 夕立の日、露点を防げず凝結したところ、右のようになっている。この日の空気の気圧と露点は同等か？</p> <p>【答え】 この日の空気の気圧は( )℃で、露点は( )℃だった。</p>	<p><b>C</b></p> <p>【課題】 次の①と②と③に該当する言葉を入れなさい。</p> <p>【答え】 水蒸気【気体】が冷えて①に達すると、②他【液体】になる。③他【固体】が凍ると、④他【固体】になる。</p>	<p><b>D</b></p> <p>【課題】 次の①と②に当てはまる言葉を入れなさい。</p> <p>【答え】 雲粒の重さは上空気流による上向きの方より①から、雨粒の重さは上空気流による上向きの方より②から。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

生徒は班内でA～Dの担当を決めて、グループに移動しました。A～Dのグループでは、他の班の人と協力して既習事項の課題を解き、Jamboardに入力しました。

<p>【昼】=晴れ</p> <p>【夕方】=雨</p> <p>A B C D</p>	<p>【昼】=晴れ</p> <p>【夕方】=雨</p> <p>水蒸気を含む空気が暖められると膨張する。上空ほど気圧が低くなるため、上昇するほど体積が大きくなり、温度は低くなる。</p> <p>この日の空気の気圧は22℃で、露点は6℃だった。</p> <p>水蒸気が冷えて露点に達すると凝結になると、露粒が生まると、雨粒になる。</p> <p>雲粒の重さは上空気流による上向きの方より軽いから、雲粒の重さは上空気流による上向きの方より重いから降る。</p>
--------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

班のメンバーが入力すると→

入力後、元の班に戻り、自分が取り組んだ課題を説明しました。その後、このヒントを見ながら、「個人で本時の課題を思考 → 班のメンバーに思考を共有 → 班で思考 → クラスで共有 → まとめ → 振り返り」という流れで授業を進めました。

公開授業後の協議会もペーパーレスにするために、Jamboardで行いました。班に戻った後の話し合い活動において、全員が自分の画面を見ながら話してしまい、話し合い活動が活発にならなかった班がありました。「話し合い活動を行う際は、タブレットの台数を1台にした方が良かったのではないか」などの意見がでました。